

「お父さんは みんなと一緒に食べることは 出来ないんですかね？」

社会福祉法人 梓の郷

介護老人福祉施設 サルビア

ユニットリーダー 山岸 彩香

ユニットリーダー 山本 真里



社会福祉法人

梓の郷

URL : azusanosato-salvia.jp

【法人紹介】

○法人名 社会福祉法人 梓の郷

○基本理念

1. 介護とは、生きがいへの支援である
2. 介護とは、ヒューマンサイエンスの実践である
3. 介護とは、地域ネットワークである
4. そして、支えあうこと

○スローガン

**わたしらしく、いつまでも
～生きがい、つながりあい、支えあい～**

○事業内容

特養、グループホーム、居宅介護支援、訪問介護、通所介護、住宅型有料、サ高住、オレンジカフェなど、5拠点9事業

【施設紹介(介護老人福祉施設サルビア)】

○運営方針

入居者を管理するのではなく、「日常生活の継続」を基本に、入居者の「個性を大切に」しながら、「プライバシーとプライドを守るケア」を行い、入居者が「自分らしく生きること」を支援します。

○定員 100名(10ユニット)

○開所年月日 平成13年12月1日

○職員配置 介護・看護職員:入居者数=1.72:1

※介護福祉士の割合:69.13%、介護職員平均年齢:約38歳

○入居者状況

男女比:1:4.16 平均要介護度:3.98

平均年齢:88.41歳(最年長104歳、最年少56歳)

はじめに

入居から毎日のようにサルビアへ通う奥さんより

「お父さんはみんなと一緒に食べることは出来ないんですかね？」

との質問が聞かれていた。

そんな中、フロアで行ったスイカ割りでも唯一食べることが出来なかったNさん。

“一緒に味わうことが出来たら・・・”と

マウスポンジにスイカの果汁を含ませ、Nさんの口に運ぶと、

ムセることなく果汁を吸って「甘い！」と。

一緒にいた奥さんも喜ばれたのが取り組みのきっかけとなった。

対象者の情報

Nさん、72歳、男性、要介護度5

【病歴】

パーキンソン病 (H19)、レビー小体型認知症 (H22)

誤嚥性肺炎 (H27)、右膿胸、肺炎 (H28)、両側肺炎 (H29)

【生活歴】

A市出身。家業の織物を扱う店を営み、その後、タクシー運転手、飲食店に勤めていた。趣味ではラリーやモトクロスをしていた。仕事や趣味の仲間が多く、病気になるまで交流が多かった。サルビアに入居した現在も奥さんを通じて交流が続いているとのこと。

【病気発症からの経過】

- パーキンソン病、レビー小体型認知症（H19）
- 幻覚、被害妄想、大声を出すなどの状態が多くなる（H26.12）
- 医療保護入院（H27.1）
入院後、不穏状態は改善されたが、レビー小体型認知症の悪化に伴い、徐々にADL、意思疎通、嚥下機能が低下。誤嚥性肺炎を繰り返し、経口摂取が困難となる。
- 胃ろう造設（H27.4）
- サルビア入居（H27.6）
いつも口を開けており、口腔内の汚れや乾燥が目立っていた。

実践内容

- ① 口腔ケアの統一
- ② 唾液腺マッサージ
- ③ 経口摂取
- ④ 家族との時間
- ⑤ アイスマッサージ

実践内容 ①口腔ケアの統一

【取組内容】

・口腔ケアの実施時間の統一

朝・昼・夕の胃ろう注入前、汚れが目立つ時に随時

・環境整備

職員がいつでもケアが行えるように、必要物品を常備

物品はお皿に寝かせて置き、乾燥させる(衛生面の配慮)

・手順の統一（24時間シートにも記載）

歯ブラシで歯を磨く(下の歯の裏側はタフトブラシを使用) →

舌の汚れがある時は舌ブラシで取り除く → マウスポンジで拭う → 唾液腺マッサージ

使用物品

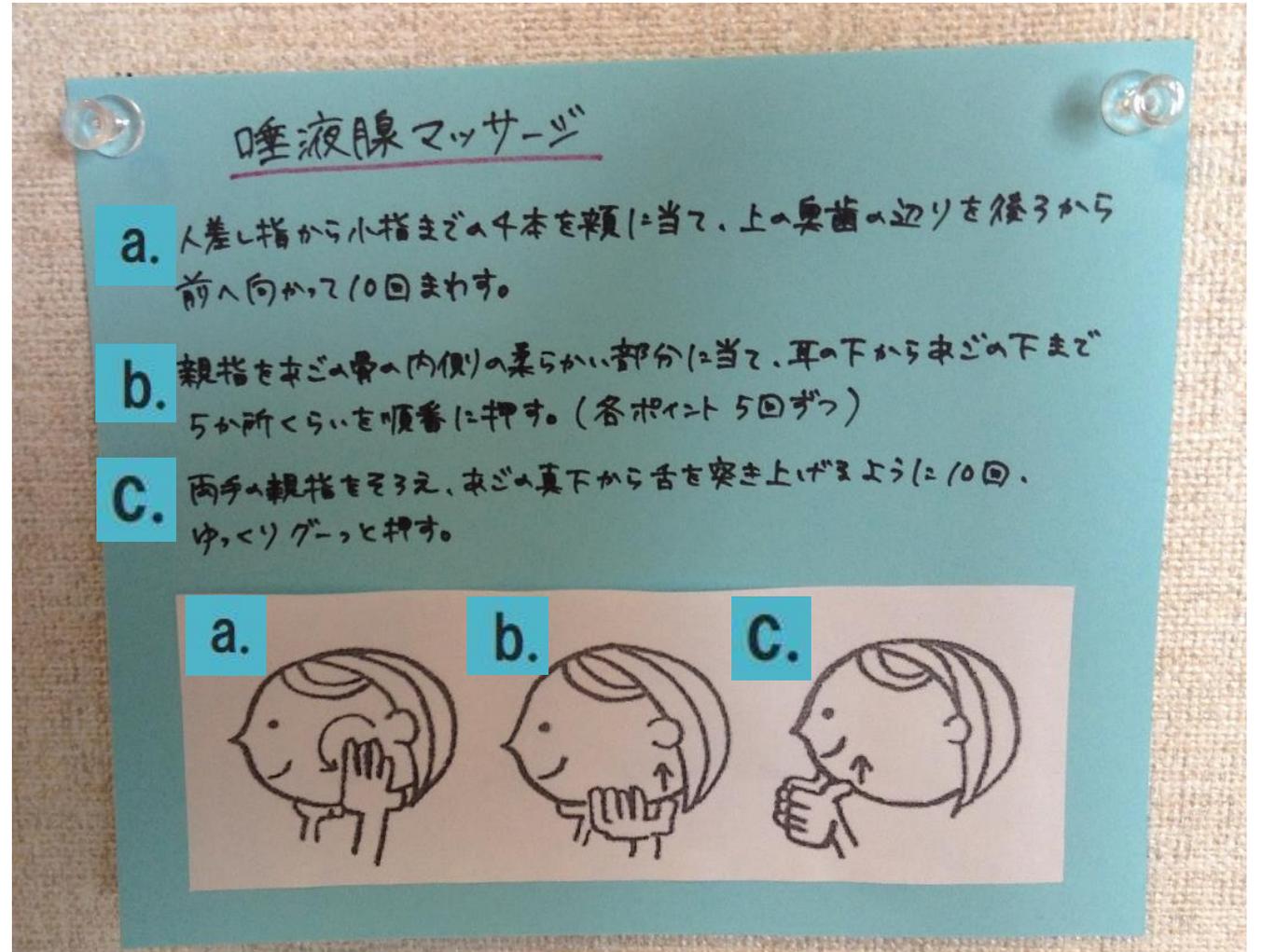
舌ブラシ、マウスポンジ、
歯ブラシ、 タフトブラシ



実践内容 ②唾液腺マッサージ

【手順】

- 人差し指から小指までの4本を頬に当て、上の奥歯の辺りを後ろから前に向かって10回まわす。
- 親指を顎骨の内側の柔らかい部分に当て、耳の下から顎の下まで5ヶ所くらいを順番に押す。(各ポイント 5回ずつ)
- 両手の親指をそろえ、顎の真下から舌を突き上げるように10回ゆっくりグーっと押す。



取り組みを開始してから・・・

- ・モグモグと口を動かすようになった。**
- ・乾燥や汚れが少なくなった。**
- ・発語が増え、「飲みたい」「食べたい」等の希望が聞かれるようになった。**

実践内容 ③経口摂取

【取組内容】

- ・1段階：マウスポンジに果汁等を含ませ、吸ってもらう
- ・2段階：果物の果汁を凍らせた氷を舐めてもらう
- ・3段階：小さいスポイトでジュースや果汁を飲んでもらう(数滴から)
- ・4段階：スプーンにジュースや果汁をすくって飲んでもらう
- ・5段階：奥さんの持参したコーヒー、甘酒、アイス等のバリエーションを増やす

【支援体制】

- ・1段階：介護職員と看護職員が一緒に
- ・2段階：介護職員のみ
- ・3段階：介護職員の実施を奥さんが見学
- ・4段階：奥さんのみ

実践内容 ④家族との時間

- 面会時、奥さんの差し入れのコーヒー、甘酒、アイス等を味わいながら、居室で夫婦の時間
- 奥さんと一緒に催事(喫茶、おやつレク等)へ参加
- サルビア祭への参加
- 自宅への外出(4回)
家族(奥さん、息子、娘、孫、妹夫婦)と食卓を囲む時間

・・・入院

経口摂取が出来、家族とのひとときも持てる様になった矢先、痰絡みが顕著に見られるようになる

→口腔ケアには継続して力を入れる・・・

しかし、経口摂取が徐々に減る・・・

そして、奥さんだけの摂取が厳しくなる・・・

吸引も増える・・・

・・・突然の発熱で入院

退院

退院後は以前よりも痰絡みが増え、吸引の頻度が増える。
そこで…

- 唾液腺マッサージに加え、**アイスマッサージ**を開始。
- 口腔内の汚れが増えた為、湿らせたガーゼで口腔内を拭い、清潔保持に努める。

実践内容 ⑤アイスマッサージ

【手順】

- ・氷水で冷やしたティースプーンで口蓋(口の中の上側の部分)全体を刺激し、「ゴックン」という嚥下を促す。

【実施】

- ・1日1回、昼の口腔ケア時と決める。

葛藤・・・

その後も入退院を繰り返す。
痰絡みは益々増え、吸引が常に必要となる。

入院先の病院で
気管を切開して人工呼吸器を。
療養型の施設に転入の話も。

リスクを承知で生活重視のサルビアに戻るか・・・
安全な体制を選ぶか・・・

家族も私たちも悩む。



一度はサルビアに戻ったが・・・

「お父さんらしい生活をしてほしい」という家族の思いから、サルビアでの生活を継続していくこととなる。

しかし、再び入院

H29年11月23日の入院から状態が安定せず、
H30年1月12日にサルビアを退居となり、病院併設の
老人保健施設へ入所となった。

考察

- ・奥さんからの一言をきっかけに取り組みを行ったことで、寝たきり状態だったNさんの生活に潤いを持たせることが出来た。
- ・本人、家族、多職種が同じ目標に向かって歩んだことで、家族がNさんの現状をありのまま受け止められるきっかけとなり、また、日々のコミュニケーションが職員と家族との信頼関係の構築にも繋がったと考える。
(インフォームド・コオペレーションの重要性が理解出来た。)
- ・体制が整っていないことが原因で最終的にNさんは退居となってしまった。
その人らしい暮らしを継続していく為には、医療的ケアの体制づくりが必要。

まとめ

- この取り組みを行って、何気ない一言の中には本人や家族の願いが込められていると感じた。今後もその声に耳を傾け、入居者1人1人のニーズにあったケアを提供していきたいと思う。
- 口から味わいたいという想いに寄り添うことから、その人らしい豊かな暮らしを目指すことが出来た。今後も1つ1つのケアを大切にしていくことで、サルビアが **わたしらしく、いつまでも** 過ごせる場所となるよう、努めていきたい。
- Nさんが退居となってしまった悲しさを忘れず、医療的ケアの充実を図っていききたい。